

# [ TOUCH×ART ] 展

## 意図

あなたが普段何気なく触っている物はどんな感触ですか。  
かたいですか。  
やわらかいですか。

小さい頃つないだ母のやわらかい手  
毎日抱いて眠っていたくまのぬいぐるみ  
大学受験に使った五角鉛筆  
一生懸命部活で吹いたトランペット  
誰もが触るドアノブ

私たちは、生きている中で様々な物に触ってきた。そして、触ってきた物のなかには、人それぞれのなんらかの思い出がある。人間には、「視覚」、「聴覚」、「嗅覚」、「味覚」、「触覚」の5つの感覚機能が存在する。一般的な展覧会には、主に「視覚」のみが主役とされる。しかし、今回私は、「視覚」を完全にシャットアウトした「触覚」のみの展覧会を人々に体験してもらいたいと考えている。どの感覚機能にも記憶を呼び覚ます効果はある。しかし、私はあえて一番の情報源である「視覚」を完全にシャットアウトし、「触覚」だけの限られた感覚機能にこだわり、遠い記憶の思い出を呼び覚ましてほしいと思っている。大人は、生きている間に様々な物を手で触り、感じ取ってきた。子供はまだ触ったことのない物がたくさんある。今回の今までにない全く新しい展覧会に幅広い年代の人々に来てもらい、芸術の面白さを感じてもらいたいと願い、この企画を実現させたいと考えている。

## 内容

○会場 東京都現代美術館

○期間 2015年9月19日(土) - 11月23日(月)

○展示物

- ・ドアノブ・蛇口・くまのぬいぐるみ・ガラパゴス携帯・トランペット・スライム
- ・プラスチック製のコップ・眼鏡・たわし・手袋・お手玉・綿・ねこじゃらし
- ・歯ブラシ・麦わら帽子・貝殻・五角鉛筆・クリスマス用靴下
- ・プラスチック製スコップ・お守り

計 20 点

今回使用する展示物は、10代から60代までの幅広い年代の人100名に調査する。形は単純で、人それぞれ何らかの思い出があるものを使用する予定だ。

例えば、私は小学2年生のとき、母が体調を悪くして入院していた際に、夜ベッドの中で必ず綿を手に握り、寂しさをこらえながら眠っていた。優しい綿の手触りは、母の手の感触に似ていた。綿は、私にとって少し切ない思い出がある。今の年齢になると、綿を触る機会など滅法減るが、何らかの機会で綿を触ると、いまだにあの時を思い出す。

このように、「触覚」だけで人はその時の感情や場所を思い出す。

人それぞれ、様々な「触覚」を感じ、あの時を思いだしてほしい。

内装は、外からの光を全てなくし、「視覚」を完全にシャットアウトする予定だ。暗い空間は、子供の好奇心を煽る場所だ。今回の展覧会では、子供も十分に楽しむことが出来る。展示物が置いてあるテーブルの床に、大きく番号をかたどったシールを貼り、壁側から小型のライトを設置し番号を照らす。安全の為や順路の確認もこれで可能だ。そしてあらかじめ入場する前に配布していたパンフレットに、展示物を記載しておき、クイズを答えるページに、展示物の感触などをペンの先が光るボールペンをこちらで用意し、そこにメモをとり、クイズに答えてもらう。すべて正解した方には、手の形をしたストラップをプレゼントする。こういった遊びの要素を取り入れることで、子供が美術館へ気軽に足を運び、芸術の面白さを感じてもらうことが可能になる。パンフレットには、今回の展覧会のねらいと、展示物、クイズページを記載する。

○展示形態 ※別紙参照

展示形態は、5つの部屋を用意し、1つの部屋に5つの作品を展示する。外からの光をなくす為、入口と出口には大きな遮光カーテンを取り付ける。展示物の置き場所は、横に長い大きめのテーブルを用意し、展示物の落下を防ぐ。来場者の安全も考えた展示にする。展示物との間隔も広めにとり、人それぞれのあの時を思いだしてもらったり、クイズを考えるスペースを確保する。5つめの部屋には、答え合わせ用のテーブルと景品をプレゼントするテーブルを用意する。

○展示形態例

